



無駄なダム・公共事業に「ストップ」を

2004年、
今年も水と自然を考えます



新年おめでとうございます。今年も「今市の水を守る市民の会」の活動への参加、ご協力よろしくお願いたします。

昨年を振り返ってみて、まず思い浮かぶことは、県営の大芦川ダム建設が中止となったことでしょう。これにより、予定地周辺の関東有数と言われる溪流とそれを取り巻く自然環境が守られることとなりました。私たちも、会としての直接の活動ではありませんでしたが、有志参加による現地や鹿沼市内でのコンサートの実施などを通して、多少なりとも中止に向けての運動の一翼を担えたのではと自負しています。

昨年の、会独自の活動としては、子供たちとの「川むしたんけん隊」や市内を流れる田川のほとりを歩く、「ゆったりウオーク」などのフィールドワークが中心となりました。日ごろ、車で走っている通りから少し離れるだけで、まったく知らなかった風景が広がり、まるで別世界のような自然に触れて多くのことを学ぶ機会を持つことができました。昨年はちょっと天候に恵まれなかった嫌いがありましたが、今年も「川むしたんけん隊」や、田川、小百周辺での「ゆったりウオーク」を予定していますので、ぜひお気軽に参加してください。

さて思川開発についてですが、年末の報道では群馬県に建設中の戸倉ダムについて埼玉県と東京とは撤退を表明、同ダムは建設中止や規模縮小など、大幅な見直しをせまられそうだ、とのこと。 (下野新聞03・12・9) また同県の「倉淵ダム」工事も当面、計画の凍結が決定されました。大方のダムはムダ、不要、との認識が常識となりつつあります。

けれども本県の湯西川ダムや思川開発などは本年度の二倍の予算が計上されているというも、一方の現実です。無駄な公共事業は自動的に止まるというわけではなく、まだまだ住民が力を尽くし、汗を流して止めない限り、止まることはないようです。東大芦ダムを中止に追い込んだ県民の力が、今年はさらに南摩ダムを止める方向に結集して行けるように願って、私たちもさらに力を尽くして行きたいと思います。

(森)

目次:

無駄なダム・公共事業に「ストップ」を 1

特集・田川ゆったりウオーク 2

事務局より活動日誌 4

水の神の怒り? 4



グリーンズ
東大芦の自然を守れ!
シール
残りわずかです。
お問い合わせは
事務局または
三水堂つり具店
(0288-21-0217) へ

2004年・1月定例会のお知らせ

1月17日(土) 午後2時から4時まで

「リンデン」(JR下野大沢駅西側、旧ひばり宅老所前)

参加費:700円(ケーキセット)

今年、やってみたいことなどを話し合います。

たくさんの方の参加をお待ちしています。



このあたりが田川の水源。
林の中に小さな池があったり、
湧き水があったり、とても興味
深い地点です。
第3回・田川ゆったりウォーク
は3月28日(日曜日)を予定し
ています。



川の中をのぞいてみる 水はとて
もきれいでした。周辺も定期的に清掃し
ているようでゴミもありません。場所に
よっては想像以上に蛇行が激しく、また
バイカモの上を滑っていく流れもとても
速く見えました。所々に瀬があり、岩が
あり、魚も確認。数種類の水生昆虫が見
つかりましたが、中でもきれいな水に棲
むカワゲラがいたのには感激しました。

歩いたコース(第二回) JR日光線「杉の沢踏み
切り」東側の火の見櫓に集合後、市道を横切って田
川に到着。堤防沿いを歩いて吉沢の磐裂いわさく
神社を折り返す約六キロのコースですが、刈入れ
も終わった田んぼの縁を歩くには、蛇も出てこな
い晩秋のこの時期が最適です。新聞を見て集まっ
てくれた人や会員は、幼稚園児から実年まで、バラ
ンスのとれた世代構成でした。



中島発電所 新しい氷の利用法といつことではこ
の板橋用水に小規模発電装置を設置。作ったエネル
ギーを庭の外灯に利用している人がいます。当会会員
の中島さんです。水量は一年中ほとんど変わらないそ
うです。この日は機械の機嫌が悪かったのですが、東京
電力が昨夏(平十五)、群馬県黒保根村で「三水力発
電」を始めたことを考えれば四年も前に実現させてい
る中島さんの方が時代を先取りしていると思います。
用水路の活用を進めた、小さな発電所。中島さんの後
に続く人がぜひ出てきてほしいと思います。

磐裂神社いわさく神社 東武線のガードをくぐ
り、細い道をたどっていくと右側にありました。杉林に
囲まれた小さな神社ですが、ここで石碑を二つ発見。
紡績堀の完成を記念した碑と今市地震の震災記念
碑でした。今はひっそりとしています。村社として大
きな役割を果たしてきた時代もあったのだと思いま
す。隣接している杉林の中には小規模ながら湧水があ
りました。

第2回集合地点
火の見櫓



水神碑 日光宇都宮道路のガードをくぐって川沿
いに二百メートルほど上流に行つたところの竹藪の中
にある、まるやかな形の石碑。田川の水を「宮堀(板橋
用水)に取水している場所でした。

二つの用水路 吉沢地区には歴史を物語る二つの
用水路があり、現在も立派にその役目を果たしてい
ます。一つは今から百五十年ほど前に「宮尊徳の息
子、弥太郎が水田開墾のために完成させた「宮堀(板
橋用水)」、もう一つは帝国繊維(株)(鹿沼市)の発電に使
うため百十年前に作られた紡績堀です。田川の上を
横切っている用水路もあ
り、例弊使街道の東側にた
くさんの用水路があると
は歩いてみるまで想像もし
ていませんでした。



車社会にとつぱり浸かっている私達の日常はごく限ら
れた所にしか目を向けていないのではないのでしょうか。今
回の場所は車を使えば五分で通過してしましますが、歩
く事で視野に入ってくるものは格段に多くなり、自分だ
けの発見があればなお楽しくなります。
水田が続いている場所でもありましたが、土沢・吉沢地
区を流れる田川は周囲の人々が長い時間をかけて整え
てきた川だといつことがわかりました。人間の手が常に
入り、生き生きとしている川を見るとその地域のつな
がりの深さが伝わってきます。それは里山の雑木林の美し
さと通じるものではないでしょうか。やわらかな日差し
に包まれたお昼時とき、一馳走になった中島家特製豚
汁のおいしかったこと。足は少し疲れましたが、ゆったり
歩いたことで充実感がありました。「川あるき」をもっと
普及させましょう。春には水源まで歩く会を計画中で
す。ぜひご参加ください
(塚崎庸子)

特集 おもしろ発見川あるき 「田川ゆったりウォーク」

里川としての田川 「里山」という言葉はすっかり定着しましたが、それに呼応するように「里川」という呼び方も最近市民権を得てきたように思います。昔から人々の暮らしに深くかかわりをもってきた川・里川。今市民にとつての里川はいくつもありますが、その中から私達は「田川」に注目、川とつながりのあるものを見つけてみようと思いましたが、そのプランを計画し、川に沿って下流から歩いてみることにしました。十月には第一回として、猪倉から木和田島を、そして第二回（十一月十六日）は、土沢から吉沢を歩いてきました。

第一回はあいにくのお天気。それでも小雨の中を、子どもたちは元気に歩きました。



上猪倉公民館そばの大山桜

歩いたコース(第一回)
猪倉犬塚橋から上流に木和田島まで、約六キロメートルを往復。途中、泉福寺や弁天沼などに寄り道しながら、川沿いの道をゆっくり歩きました。



第1回集合地点
犬塚橋



第2回 参加者の感想

思っていたより水がきれいだった。魚も見えた。田川を見なおした。発電施設に興味があった。ずいぶん曲がりくねっている川だと思った。刈田の中を歩いて気持ちよかった。クルマではわからない場所をたくさん見つける事ができた。

泉福寺 約千二百年前に創建されたと伝えられ、境内西側の山中には八十八体の石仏がまつられ、霊場巡りができます。ここで休憩をとらせていただきました。

弁天沼 今市市で有名な湧水のひとつ。珍しい植物や、日本で一番小さいムシヨウトン糸など、トンボ類が多く見られます。

事務局より・活動日誌

9月6日(土)「流域の会」定例会参加
9月7日(日)「だいや川通信」15号発送作業(支援センター)
9月13日(土)今市の水・定例会(支援センター)
9月21日(日)今市市ボランティア・フェスタ 出展
10月4日(土)「流域の会」定例会参加
10月5日(日)今市の水・定例会(支援センター)
10月12日(日)田川 ゆったりウオーク
11月1日(土)「流域の会」定例会参加
11月8日(土)今市の水・定例会(支援センター)
11月16日(日)田川 ゆったりウオーク
12月6日(土)「流域の会」定例会参加
12月20日(土)今市の水・定例会(支援センター)

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森方
今市の水を守る市民の会

郵便振替口座

00140-4-535550

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>



水の神の怒り？

近畿最大の大滝ダム(奈良県川上村)、完成目前で運用停止

平成15年12月24日の日経新聞にダム事業見直しの記事が載っていたが、その中で注目したのは14年春完成予定とされていた大滝ダムが現在、運用停止になつていることだ。その理由は貯水を始めたら周辺道路や家屋に亀裂が入ったからだという。

平成13年秋に開かれた高野山での水郷水都全国会議の帰路、吉野川上流(丹生川)で建設中のこのダムの近くを歩いたことがある。まもなく完成という時期だったからダンプカーが据付道路を何台も行き交っていたし、杉の大木の上をちょん切って観覧のためのシンボルトワーとしたものも出来あがっていた。また周辺には村営の立派な温泉宿泊施設が既に営業していた。ダム湖の左岸より300メートルほど上の山中には移転して新築された川上神社上社があった。水の神を祭りかつては丹生川のほとりに建っていたのだが、山の中には似つかわしくない総ヒノキづくり・金ぴか飾りの派手な社殿になっていた。たいそうな補償金だったのだろう。



この記事を目にすると、以前「思川開発事業を考える流域の会」で問題視したダム湖と地震との関係が今、このダムで実証されようとしていると思えてならないのだ。水の神が怒ったのだ、と言ってしまえばきっと笑われてしまう。しかしどだい無理な地形にダムを作ったことが周辺の活断層に何らかの影響を与えてしまった、と言えないだろうか。完成目前で運用停止とは大いなる税金のムダづかい。大滝ダムの現実を国は直視し、工事着工前に更なる精密な調査をする義務があると思う。大滝ダムの二の舞を南摩では絶対踏ませたくない。(塚崎)

写真:家屋のコンクリートに入ったひび(2003年5月25日付『奈良民報』)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。12月発行予定が、さまざまな行事の都合で年を越してしまい、申し訳ありませんでした。今後も年4回の発行をめざしていきます。みなさまのご協力をよろしく願います。ある忘年会で、都会から今市に移り住んできた方が、「都会の住人にとって『自然』は公園くらいのイメージしかない」と話されていました。ふかふかの地面、近くに水道やトイレがあり、暖かい日差しの中で畑作りをするというのが都会から見た田舎だ。ところが実際に地面に鍬を入れてみれば木の根に阻まれ、水は川から汲んで来るもの。夏は猛烈に暑く、冬は寒風。このギャップは体験してみないとわからない、とそれを聞きながら、今市の市街地に住んでいる私たちだって、積極的に山や川へ出かけていかなければ都会暮らしと変わらないなあ、と考えてしまいました。子どもたちが自然の中で遊ぶ姿も減りました。せっかくこれだけの『自然』という資源を持ちながら、私たちはこれをほんの少ししか活用していないような気がします。「ゆったりウオーク」などの行事は、自分たちのそんな思いをあらためて確かめ、広めていくための試み。今年も少しずつやっていきたいと思っています。(手塚)

